

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第188期）

北海道新十津川町 坂本 剛

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 北の大地の小さな町から

北海道新十津川町は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置する人口約 6,500 人の小さな町である。奈良県十津川郷からの団体移住により開かれた歴史を持つ。

この町の自治体職員である私は、自治大学校基本法制B研修と第2部課程研修に参加させていただくこととなった。

本町は、職員個々の資質向上の積み上げが組織全体のレベルアップに繋がるという趣旨に加えて、現町長も自治大研修生OBであり、この研修が非常に貴重な機会であることの認識から、毎年2～3名を自治大研修に送り出し、現職員の半数は自治大研修を経て業務にあたっている。職員数の多い自治体では、将来の幹部候補生として選抜された者しか参加できないという自治体もある状況の中、私は、非常に恵まれた環境において何物にも代え難い貴重な経験と資質向上の機会を与えていただいた。

2 地方自治体職員最高峰の研修機関で ～研修の特徴～

(1) 日本屈指の講師陣

自治大での講義は、第一線でご活躍されている著名な方々による講義で、様々な分野の現状や最新情報、今後の動向などを直に聴講することができた。毎時間70分の講義時間があつという間すぎるほど、内容の充実した講義が多く、この短期間でのこのような機会はもう2度とないであろうとても貴重な経験であった。

(2) 政策立案演習

研修生5名～6名により限られた時間の中で首長に上申できる内容の政策を企画するというものである。

単なる調査・研究ではなく、実際に自治体の政策として成り立つレベルの企画を現状分析、問題点の把握、課題解決策に辿りつくためのエビデンスに基づく理論付けを行い、文章と資料にまとめ発表する。

メンバーは、同じ自治体職員ではあるが、地域や規模が異なる環境下でそれぞれ別々の業務を担当している。限られた時間の中でひとつの政策を作り上げるその過程においては、同じベクトルで向かうための共通認識や共通理解が必要であり、そのための協議を幾度となく重ねたことを思い出す。方向性の答えが出たところで、それぞれ個々の得意分野を活かした役割が自然と出来上がり、完成の際は、皆でつくりあげることができたという充実感とともに、コミュニケーション能力やマネジメント能力がいかに重要であるかを痛感した。

(3) 事例演習

事前に4事例が冊子により配付され、問題点や課題を整理し、その解決策を個人、小グループ、最後に16人のグループで一定の結論に導くという演習であった。

同じテーマひとつでも様々な切り口から様々な考え方があり、論点の整理やその結論づけなどを端的に伝える能力、また、それらを集約しまとめる能力が問われる討議であった。

(4) 全寮制での運命共同体

研修期間中は、全寮制により全国の研修生と寝食を共にする。特に同じフロアの研

修生とは、研修終了後や休日も多く時間を共に過ごした運命共同体であった。研修生活が充実したのも仲間がいたことに尽きる。

3 研修で得たもの ～自治大での成果～

座学による幅広い知識は、自治体職員の基礎知識として今後の業務に有効に活用でき、政策立案演習や事例演習での経験から、コミュニケーション能力やマネジメント能力をはじめ、問題解決やEBPM（証拠に基づく政策形成）など多くのスキルが必要であることを学ぶことができた。政策立案演習や事例演習は、まさにその過程そのものが、普段の業務に必要なスキルであり、限られた時間と職員で日々の業務における課題を見出し、その解決策を新たな事業や政策として立案し展開していく手法を体系的に経験できた。と同時に、自分の無知さと視野の狭さ、多くのスキルがまだまだ自分には足りないということに気づかされたことも成果のひとつと言える。

また、2ヶ月半の研修期間を共に学び共に過ごした研修生がいたからこそ、様々な意見や考え方を学ぶこともできた。今後もかけがえのない仲間として、さらには、全国各地の良きライバルとしてお互いに近況を報告し合いながら切磋琢磨していきたい。特に同じフロアの18人とは、研修後や休日にも共に過ごし、今後もかけがえのない生涯の友となることであろう。

4 北の大地の小さな町で

研修が終わり2ヶ月が経過した。SNSでは、同じフロアの仲間などから近況報告が寄せられ、自治大での生活がとても懐かしく感じる。

全国様々な規模の自治体から参加した研修生と過ごした日々は、私のような小さな

町の自治体職員でも、非常に有用であった。小さい町には小さいなり自治があり、住民の福祉の向上と郷土の発展を目指すことに関しては、自治体規模の大小問わず研修生全員の共通課題でもあったと思う。

佐々木自治大校長は、講話の中で「この研修で学んだことや出来事全てを今後いかに発酵させるかは、君達次第だ。」と仰っていた。日常では得ることのできなかつたこの研修での貴重な経験を決して腐らせることなく、今までの自分を振り返り、自身の「強み」「弱み」を見極めたうえで、研修の成果を自分なりに発酵させ、我が町に還元していきたいと思う。

最後になるが、本寄稿の機会を与えていただいた宮崎県派遣の教務部の方、立川市派遣の教授室の方に感謝を申し上げ「卒業生の声」とさせていただく。



(自治大学校管理棟エントランスホールにて撮影)